

コンパクトな街を目指して

高杉 徹 議員

の整理解消に向け、さらなる努力をお願いしている。また、市に対しても、先日の決算講評の時に、なお一層滞納整理に取り組むよう要望した。最後に滞納額は9億3千305万1千94円。

(再質問) そういうことは全然聞いてない。今言ったことは答えになっていない。A 監査委員に聞いていい。自分で答弁する能力がないのなら不適任である。まして女性に答弁させるのは卑怯ではないか。監査委員としてどう思っているか
示せ。

(再答弁) (代表監査) いろいろとA 監査委員とも相談をして後ほど答弁したい。

(再々質問) A 監査委員は自分の考えを述べるのに相談しないと出来ないのか。いつでも私は議論をするし、逃げない。最後に回答はいつもらえるのか。

(再々答弁) (監査事務局長) 今回の通告に対しては代表監査委員が答弁したとおりである。

○限界集落、買い物難民と市街地にぎわい再生事業について

質問 限界集落とは農山村部で高齢化率50%以上の集落である。全国で7878ヶ所あり、そのうち423箇所は集落が消滅すると国が予想している。買い物難民とは高齢者など運転が出来ず、街の中にあつた商業施設が閉店したため、歩いて買い物ができなくなった人々である。これらは決して他の地方都市の出来事ではなく、常総市においても少なからず同じ傾向が見られる。①市街地にぎわい再生事業は、歩いて買い物ができるコンパクトな街という点については、どのように関わり、そして効果があるか。目指すべき街づくりの方向について示せ。②市街地を暮らしの場として再生し、街中の居住人口を増やす政策が必要と思うが、今回の市街地にぎわい再生事業は市街地に住む人口を増やすという点について、

どんな関わりがあり、効果はあるのか。

答弁 (都市建設長) 居住や商業機能などが充実したコンパクトシティの実現に向けては、中心市街地の魅力を高めることが最も重要であり、居住者及び来街者の利便性の向上を図る魅力的な市街地環境の創出こそが、新たな商店の誘致や新規の住宅への入居促進につながるかと考えている。

具体的には、①については、バリアフリー化を目的に宝町山田線や安心して歩ける道づくり等の整備を行ってきた。

今回の「市街地にぎわい再生事業検討協議会」事業の進め方としては非常に有効な方向に進んでおり、当事業地内では、農産物直売等を検討。実現に向けて営農者との連携も進めており、このような取り組みを通じて、歩いて買い物ができるまちづくりの一助になると考えている。

次に②の居住人口を増やす

す政策については、中心市街地内の魅力を高め、居住者の定着に向けて、市街地内の低利用地や未利用地の利用促進の施策を検討。

(再質問) この事業はカスミ周辺に広場と交流拠点施設と道路を作るといふ案だが、これで商業活性化と人口増加にどう結びつくのか。具体的に示せ。

(再答弁) (都市建設部長) この事業を実施してもすべて活性化になるとは思わないうが、あくまでも拠点づくり。総合的に検討し、実施に向けて何回か検討委員会を立ち上げ進めたい。

(再々質問) 端的に聞いているのは、この案で商業機能充実と人口増加に具体的にはどのような兼ね合いがあるのか。

(再々答弁) (都市建設部長) 居住環境整備のひとつの手法として施設整備が示され、市街地内の未利用地などの有効利用を地権者と協議しながら整備していきたい。

〈その他の質問事項〉

○当市財政の中間的展望と合併特例債事業について。

○不登校の子供たちとのかしきスクールの重要性について。

道路事業の進捗状況と計画の見直し

坂巻文夫 議員

○鹿小路細野線(西幹線)の進捗状況について

質問 合併特例債共通事業と位置づけられた3事業のうち、石下庁舎は先日開庁。つくば下総広域農道は平成24年度の開通を目指し、順調に工事が進んでいる。さて西幹線であるが、共通3事業の中では予算が最も多く、先々には鬼怒川西部を南北に貫く鬼怒川ふれあい

道路と位置づけた大動脈の一部として供用することも期待されている。そこで、用地買収の進捗状況はどうなっているか。平成26年度供用開始に向けて工事のスケジュールを尋ねる。開通後市としては沿線の開発計画を考えているか。

答弁 (都市建設部長) 鹿小路細野線、いわゆる西幹線事業は、合併特例債を活用し